

下野市立石橋北小学校

1 学校課題

(1) 研究主題

主体的に学び、高め合う児童の育成
～「わかる」「できる」が実感できる授業をめざして～

(2) 主題設定の理由

これまでの取組として、本校ではICT機器を活用し、言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を育成することをねらいとした授業研究を行ってきた。その成果として、ICT機器の活用や具体的な体験は、児童の学習意欲を高め、学び合いによって言語活動の充実や思考活動の活性化を図ることが分かってきた。さらに、児童の学習意欲を喚起することにより、主体的な学習につながると考えた。

しかし、学校課題研究や学力調査等の結果から、自ら課題を見つけ、主体的に学習に取り組む意欲にまだ課題があることが分かった。このことは、自己肯定感、成就感（達成感）との関連があると考えた。

以上のことから、今年度は、児童が成就感、達成感を得ることができれば、学習意欲が喚起され、主体的な学びにつながり、互いに意見や考えの交流が活性化され、より高め合うことができるのではないかと考え、研究に取り組むことにした。

(3) 主題のとらえ方

①主体的に学ぶ

子どもたちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげること。すなわち、ひとりひとりが、目的意識や課題意識をもち、その目的や課題解決に向かって、これまでに習得してきた知識・技能を活用し、「分かった」「できた」という喜びや達成感を、次の学びへの意欲へつなげること。

②高め合う

自らの目的や課題を解決するために、仲間と協力し合ったり、互いの考えを認め合いながら、意見を交流をしたりする活動を通し、自分の考えをよりよく（広がりや深まり）すること。

③わかる・できる

「分かった!」「できた!」という喜びや感動、成就感、達成感は、新たな学びへの大きなエネルギー（学習意欲）。自己肯定感へつながるもの。



2 研究内容

(1) 学習意欲を高め主体的に学びに向かうことができる授業の工夫

- ①児童が自ら目的意識や課題意識（疑問・問い）をもつことのできる導入（具体的な活動・ICT）
- ②自分なりに、問題の解決への見通しがもてる活動

(2) 児童同士が互いの有効な関わり合いを生み出す工夫

- ①安心して学ぶことのできる学習集団づくり（Q-U実施・結果分析）
- ②個のよさを生かす学習形態や学習活動

(3) 達成感や喜びのある学習内容の工夫

- ①習熟度別学習による達成感や成就感を得る教材活用（プリント作成）
- ②学び合いによる個の課題の解決



3 研究経過

(1) 課題追究のための主な授業

月・日	学年	分類	教科・単元名	課題解決に迫るための授業の視点
6 / 21日	2年	校 内 (要請)	国語 『大事なことをおとさずに、話したり聞いたりしよう「ともこさんはどこかな」』	<ul style="list-style-type: none"> ・大事なことを落とさずに伝えるために、話す事柄を選んだり、順序を考えたりすることが「わかる」「できる」の実感に有効であったか。 ・話す内容を考えるときに、児童同士で助言することで、高め合うことができたか。
11 / 6日	4年	S & U	算数 「垂直、平行と四角形」	<ul style="list-style-type: none"> ・ドットカードは、子どもたちが自分の考えを深め、理解を高めるために効果があるか。 ・身近な垂直さがしが、子どもたちの理解を深める効果があるか。
12 / 6日	6年	S & U	理科 「大地のつくりと変化」	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自ら考えた実験により、地層がずれる理由について理解を促したか。 ・児童が地層のずれを検証するために、工夫した実験は効果があるか。
1 / 19日	5年	校 内	算数 「分数と整数のかけ算、わり算」	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の自己解決力をつけるために、図(数直線)を活用することは効果があったか。 ・既習の計算法や図(数直線・面積図)を活用し、新たな計算方法の説明する方法は有効であったか。
1 / 22日	個別 支援 5年	校 内	算数 「お金の計算をしよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中の様々な場面での通貨に関する内容(「金額」「両替」「おつり)」の理解にパソコンソフトを活用した活動は有効であったか。

(2) 算数の授業をどの学年でも同じようなパターンで進め、学年が変わったときの学びにくさの解消をねらった。「算数学習の手引き」を教室に掲示し、どの教室でも同様な進め方で授業を展開するようにした。

(3) 昨年度までの研究成果を取り入れ、児童や教師がタブレット端末で撮影した画像や動画を記録や話し合い、表現、調べ学習などに活用することで、様々な教科の「分かる」授業を展開した。

4 本年度の成果と課題

(1) 成果

- ① 具体的な操作活動を取り入れることで、日常生活との関連を図り、課題場面のイメージができ、より課題解決が図れるようになってきた。また、興味・関心や意欲の高まりも見られた。画像や動画等のICTの活用で、理解しにくい部分や経験不足を補うことができ、学習内容の理解を促進させることができた。
- ② 学習内容に応じた学習形態を変えることで、話し合い活動の活性化が進み、自分の考えに自信を持つことができ、さらに互いの考えをより高め合うことにつながった。互いの考えを尊重し合える学級集団づくりは、高め合う学習活動には不可欠であった。
- ③ 達成感や喜びのある学習活動には、学力差や理解力を考慮し、課題や発問の内容を変えたり、プリントの活用、学び合い活動などを取り入れたことで、理解が深まり、意欲も高まった。

(2) 今後の課題

- ① 次の授業につながる「振り返り」について、有効な方法やパターンをさらに研究したい。
- ② 6年間を見通し、「分かる授業の展開」について、さらに研究し、どの児童もいきいきと学習に取り組めるようにしたい。